

コーティング技能検定制度と 日本コーティング協会の取り組み

日本コーティング協会は2012年12月に、施工店5社が発起人となり設立された。現在は施工店のほか、コーティングに必要な製品を扱う企業が賛助会員として参加しており、合計で約60社が名を連ねている。

同協会の主な活動は、コーティングを施工したいユーザーがより安心して商品やサービスを利用できるようにすること、業界の地位向上と発展を目的とした「コーティング技能検定制度」の実施だ。

検定は1〜3級に分かれており、3月末の合格者は3級が約500人、2級が約100人、1級が37人。なお、加盟店でなく



友成代表理事

とも検定は受けることができる。

審査は1〜3級を指導できる「研磨インストラクター」が担当する。

3級は業界に入ったばかりの初心者やコーティングを扱う店舗で働く事務員を主な受験者と想定したもので、コーティングを行うにあたって必要となる基礎知識を問う内容となっている。これまで、合否は筆記試験のみで判定していたが、今後は基礎的な技能試験も加える方針だ。

2級は3級の合格者を対象としており、制限時間内に協会の定めた基準通りにキズを磨けるかを審査する内容で、プロの技術者としての基本的なスキルを問うものだ。「キズを目視できて、それをみえないレベルにまで磨ければ合格」となるが、磨きの理論を理解していなければ難しいことから、「2級が一番シビア」という。現時点での合格率は3級が100%、1級が77%なの

に対し、2級は50%となっている。試験科目は実技のみ。

1級は施工に関する知識や作業中の安全確保対策、納車までの対応など、業務スキル全般を問う内容であり、受験資格は実務経験3年以上かつ2級の合格者。プロとして必要な技術力はもちろん、車両が持ち込まれた時点でついていたキズを把握しているか、施工内容を納車時に説明できるかなど、「1つの店舗を任せられるレベル」であることが求められる。2級同様、試験科目は実技のみ。

なお、検定制度は新技術への対応や技術レベルの低下を防ぐため、2年ごとの「資格更新制度」としている。

そのほかの活動としては、15年1月より「研磨塾」を開催している。

友成代表理事は「コーティング業界では技術を門外不出とする傾向があるが、それでは業界の発展は進まない」と考える。そこで、月1回3時間あたりのペースで、コーティングの知識と施工方法を伝えることで、技術者

たちのスキルアップを図る。

また、コーティング技能検定についての問い合わせが海外からもあり、受験者も存在することから、検定制度の海外展開もしている。15年6月には、台湾で検定を開催した。

今後の活動としては、業界の現状をまとめたデータが存在しないことから、業界動向の把握を最優先で進める。また、未経験ながらもプロとして仕事をしたい人を育てるための仕組み作りも進めていく。そのほか、今年にはコーティング技能検定制度を香港で開催することを予定しており、今後は中国での展開も検討している。



3月16～18日に開催されたIAAEにブースを出展。今後もイベントへの出展やフェイスブックの活用を通じて、技能検定制度の認知度拡大を図っていく。